

式 辞

2年生の皆さん、県立広島大学への入学、改めましておめでとうございます。残念ながら、昨年度は皆さんのために用意していました入学式は新型コロナウイルスの感染の終息時期が見通せなかったことから、皆さんの健康を最優先し、中止させていただきました。我々も苦渋の選択で、入学式が出来なかったことを大変残念に思います。誠に申し訳ありませんでした。昨年度は、本学の3つの学部、554名の学部学生、また、助産学専攻科に10名、90名の大学院生、総勢654名の新入生を迎えました。

現在、パンデミックをもたらしている新型コロナウイルス感染症は、わたしたち人類にとって大きな試練となっています。ところで、人類の歴史は感染症の歴史でもあります。幾つもの時代の転換期には病原体の存在がありました。世界を震撼させた感染症の代表例はペストです。1回目のパンデミックは6世紀に東ローマ帝国を中心に起こり、1億人以上の死者を出したと言われています。14世紀に2回目のパンデミックを起こしています。その後、17世紀にも流行があり、この間、ペストはヨーロッパの人口3分の1となる2500万人の人の命を奪ったとされていますが、アメリカCDCの試算では5000万人ともされています。その状況は、1562年頃ブリューゲルが描いた「死の勝利」という骸骨の軍隊が人々を襲うという絵画に描かれています。このペストの終息には、北里柴三郎のペスト菌の発見が大きく貢献しています。今ではゲンタマイシンなどの抗生物質で治療することができます。そのうち、16世紀には天然痘が流行し、現在の中南米にあるインカ帝国などに持ち込まれ、滅亡を早めたと言われています。1918年から20年にかけて大流行した新型インフルエンザ「スペイン風邪」では、第一次世界大戦の戦死者数を上回る2千万人から5千万人が死亡したと見積もられています。新型インフルエンザの流行はその後も57年のアジア風邪、68年の香港風邪と続きました。1902年にはSARSが、10年後にはMERSが流行しています。今回の新型コロナウイルスはSARSやMERSとは異なり、軽症や無症状の感染者が多いため、いろいろな対策をすり抜け世界に広がりました。

世界が新型コロナウイルスのパンデミックに直面して1年以上が経過し、日本でも終息が見通せない状況が続いています。昨年の2月以来、我々の行動は制限され、社会の在り様も変わってきました。中国で感染者が見つかり、その後、韓国、日本、そして中東、ヨーロッパ、さらにはアメリカと瞬く間に世界へと拡大していきました。これも、グローバル化の負の側面かもしれません。パンデミックを引き起こした新型コロナウイルスも結局われわれの細胞内で遺伝子発現機構に寄生して生き延びています。ウイルスと共存しながら進化してきた人類の英知をもってすれば、このパンデミックに打ち勝つことは必ずできるはずで

す。

さて、本学の基本理念は「地域に根ざした、県民から信頼される大学」です。そして、全学の人材育成目標は、主体的に考え、課題解決に向け行動できる実践力、多様性を尊重する国際感覚や豊かなコミュニケーション能力を身に付け、生涯学び続ける自律的な学修者として、地域創生に貢献できる「課題探究型地域創生人材」を育成することにあります。島県には、明治35年に日本で2番目の高等師範学校が設立され、「教育の西の総本山」と称されるなど、日本の教育界をリードしてきました。また、こうした教育を基礎として、新たな産業の創出につながってきました。今では、出荷金額からみた全国1位の工業製品は、印刷機械、破砕機、やすり、プラスチックフィルム・シートなど多数あります。工業製品だけではなく、農水産物では、レモン、ネーブルオレンジ、ワケギ、クワイ、或いはカキ類養殖などは全国1位の収穫量、生産量を誇っています。皆さんはこのような広島県で、すでに1年間を過ごされてきたわけですが、コロナ禍で自由に動き回ることがはばかれますが、これからは、或いはこれからも地元のいろいろな課題を自分なりに見つけて、本学での「学び」を通じて、解決する糸口を見出してみてください。それが「課題探究型地域創生人材」となって、育っていくことを期待しています。大学での「学び」が成就するためには、学びたいという学生側の思いが欠かせません。それなしに、どんなに体系だったカリキュラムを組んでも、学びは生まれません。ただ、与えられたものを受け身で聞いているだけで学べるわけではありません。真の知識とは、自らが経験し思考することによって生み出されるものです。

終わりに、コロナ禍で、先の見えない、解のない社会となっている現在ですが、若い皆さんの力と知恵により、より良い社会となっていくことを信じて、お祝いの言葉とします。

令和3年4月5日
県立広島大学長 森永 力